

瀬戸の女性 壇上で大役

表題は中日新聞 1 月 5 日夕刊。リードから一染色体が欠損して円状になる、希少な染色体異常「21 リングモノソミー」のある愛知県瀬戸市幡野町の池戸美優さん（20）が 8 日、成人式を迎える。母親智美さんと一緒に地元の式典に出席し、新成人の代表として、壇上で大役を務める。



「美優、きれいになって良かったねえ」 昨年末、瀬戸市の美容室で衣装合わせをした際に、髪を結い上げた美優さんに智美さんが話し掛けた。美優さんは、黒地に赤いツバキがちりばめられた振り袖姿。声を発することはできないが、ぱちぱちと両手をたたいて応えた。美優さんは 1996 年の大みそか、1950 グラムの低体重で生まれた。翌日に肺が破れ、病院の新生児集中治療室へ。医師に「今夜がヤマです」と告げられた。一命はとりとめたが 1 カ月後、世界でも当時、百例ほどしか報告がなかった 21 リングモノソミーと診断された。「将来、歩けるのか、話せるのかさえ分からない」と言われた。帰宅後に智美さんが「どうして罰が当たったんだろう」と漏らすと、夫の陽平さんに「そんなことを言ったら美優がかわいそうだ。きっと大きな使命を持って生まれてきたんだよ」と励まされた。美優さんは、てんかんや血小板減少症などで入退院を繰り返した。食事を取ったり、支えなしで歩いたりする自立行動は困難で、今の身長は 125 センチだ。

智美さんにとって、地域の成人式に出るのは「夢」だった。「美優は小学校から特別支援学校で、地元の子たちと交流がない。同年代の人たちに、地域の一員として美優という『同級生』がいると知ってほしかった」 成人式の打ち合わせに出席したところ、女性の新成人代表として、母子二人で壇上で、記念品を受け取る役目を担うことに。

じつはお母さんの智美さんには昨年 10 月にお世話になった。映画「みんなの学校」上映会を瀬戸の FM 局で宣伝させてもらった。そのときは美優さんのことは、まったく知らなかった。パーソナリティとしての力量だけでなく、人を惹きつけるものを感じた。とりわけ障がい者の問題にじつに詳しい人だと感心したものだ。この記事により納得した。



昨日の成人式の「晴れの舞台」は無事に終わると、フェイスブックに投稿が。美優さんのほっとしたような笑顔が、なんとも言えなかった。すぐにお祝いの返信をした。朝日新聞 9 日朝刊に大きく掲載された。「楽しい 20 年間と今なら思える。ありがとう」という智美さんの言葉がここに響いた。

(2017 年 1 月 9 日)